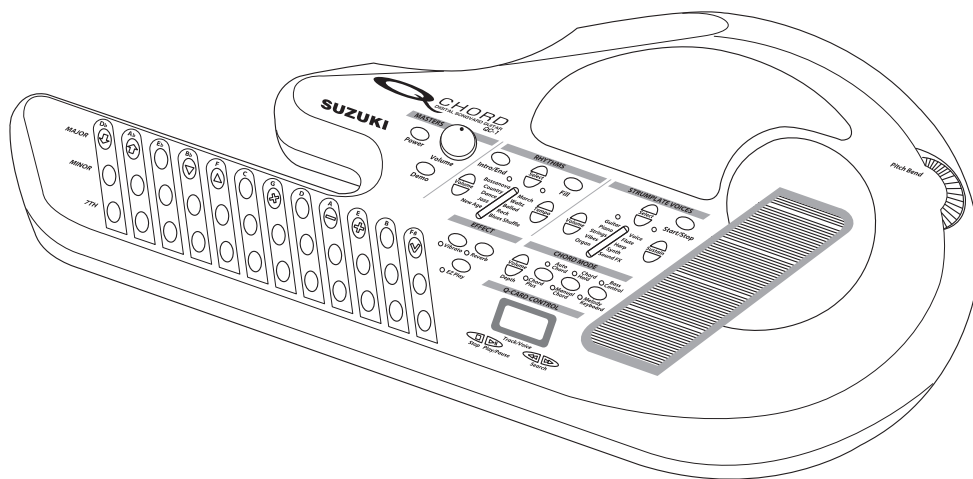


Q CHORD

DIGITAL SONGCARD GUITAR

QC-1

取扱説明書



この度はスズキQコードをお買い上げいただき、
誠にありがとうございます。
本製品を末永く安全にお使いいただくため、
この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった取扱説明書は、なくさないように大切に保管してください。

 **SUZUKI**

使用上の注意 (Qコード本体)

警告



改造・分解は危険です

改造や分解はしないでください。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。



付属のACアダプタ以外は使用しないでください

付属のACアダプタ(OCA-2)以外は絶対に使用しないでください。故障の原因となるだけでなく、感電・発熱・火災の恐れがありたいへん危険です。



異常を感じたら電源を切ってください

万一異臭や発熱など異常を感じたときは、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ販売店またはスズキ各営業所にご連絡ください。



濡れた手で触らないで

濡れた手で電源プラグ・コードおよび本体に触れないでください。感電の恐れがあり大変危険です。



水・湿気は大敵です

水分や湿気の多い場所では、絶対に使用・保管しないでください。故障の原因となるだけでなく、感電の恐れがあり大変危険です。



ホコリっぽい場所は避けてください

故障や発火などの原因となる場合があります。



コードは引っ張らないでください

ACアダプタのコードの上に物を置いたり、引っ張ったりしないでください。感電の恐れがありたいへん危険です。



ACアダプタは必ず

AC100Vの電源でご使用ください。

注意



熱くなる場所を避けてください

自動車の中や暖房器具のすぐ近くなど、極端に熱くなる場所での使用・保管は避けてください。変形・故障の原因になることがあります。



衝撃を与えないでください

楽器をぶついたり、落としたりしないでください。製品に傷を付けるだけでなく、故障の原因になります。



不安定な場所に置かないでください

楽器を不安定な場所に置かないでください。落下をして思わぬケガをする危険があります。



使わないときや移動のときは電源プラグを抜いてください

ご使用の後は電源スイッチを切ってください。長時間演奏しないときや移動のときは、楽器保護のためコンセントから電源プラグを抜いてください。



お手入れはやわらかい布で

お手入れはやわらかい布でカラ拭きしてください。アルコール・シンナー・ベンジン等は製品を傷めますので絶対に使用しないでください。



製品の上に乗ったり重いものを乗せたりしないでください

製品に傷を付けるだけでなく、故障の原因になります。また、転倒・落下をして思わぬケガをする危険があります。

使用上の注意 (Qカードソングカートリッジ)



注意



改造・分解はしないでください

改造や分解はしないでください。データが壊れる恐れがあります。



濡れた手で触らないで

濡れた手でソングカートリッジを触らないでください。データが壊れる恐れがあります。



衝撃を与えないでください

楽器をぶつけたり、落としたりしないでください。製品に傷を付けるだけでなく、故障の原因になります。



電気接点に触れないでください。

電気接点が壊れるだけでなく、データが壊れたり、正確に作動しない原因にもなります。



ソングカートリッジ以外のものをQコードの挿入口に入れないでください。

ソングカートリッジ以外のものを入れるとQコードが故障する原因になります。



製品の上に乗ったり重いものを乗せたりしないでください

製品に傷を付けるだけでなく、故障の原因になります。



水・湿気は大敵です

水分や湿気の多い場所では、使用・保管しないでください。データが壊れたり、変形・故障の原因となります。



ホコリっぽい場所は避けてください

故障の原因となります。



熱くなる場所を避けてください

自動車の中や暖房器具のすぐ近くなど、極端に熱くなる場所での使用・保管は避けてください。変形・故障の原因になることがあります。



ソングカートリッジの抜き差しは、必ずQコードの電源を切った状態で行ってください。

Qコードが誤動作する場合があります。



お手入れはやわらかい布で

電気接点にゴミや汚れが付着した場合、乾いた柔らかい布で、ソングカートリッジの電気接点を拭いて、きれいにしてください。

目次

使用上の注意	1	コードモード	27
目次	3	伴奏演奏	
Qコードの特長	4	伴奏ボリューム調節	
仕様	4	オートコードボタン	
各部の名称とはたらき	5	コードプラスボタン	
ご使用になる前に	9	コードホールドボタン	
電池の入れ方	9	マニュアルコードボタン	
ACアダプタの取り付け方	9	バスコントロールボタン	
デモソングの再生1	10	初期設定モード	
デモソングの再生2	11	コード・バス・ドラムのモード	
Qカードソングカートリッジの再生	12	バス・ドラムのモード	
演奏の仕方	13	ドラムのみのモード	
イージープレイ	13	伴奏トラックボリューム調節の仕方	
イージープレイの使い方		バンド演奏	32
コード音の音色を変えるには		Qコードクイック設定	
ストラムプレート	15	楽譜	
ストラムプレート音色の選択とボリューム調節		その他の機能	34
サステインの調節		トランスポーズ	
スライド演奏		チューニング	
タッチ演奏		オクターブシフト	
ストラムプレート音のみの演奏		ストラムプレート追加音色	
ビブラート効果をかける		メロディキーボード	
ビブラートの深さを変える		MIDI	39
リバーブ効果をかける		MIDIについて	39
リバーブの深さを変える		MIDIとは	
ピッチベンドホイールの使い方		MIDI OUTとは	
コード演奏	22	MIDI INとは	
ワンフィンガーコード演奏		MIDIデータの送受信	40
マルチフィンガーコード演奏		MIDIデータの送信	
リズム	24	MIDIデータの受信	
リズムの選択		MIDIエクスペンダーモード	41
ボリュームの調節		MIDIエクスペンダーモードの設定	
リズムテンポ		MIDIインプリメンテーションチャート	42
イントロ/エンディングパターン		ストラムプレート追加音色リスト	43
フィルパターン		アフターサービスについて	45

Qコードの特長

Qコードはハーブセンサー(ストラムプレート)を備えたユニークな自動伴奏機能付の電子楽器です。誰でも簡単に演奏ができ、音楽を創造できます。また軽量・ポータブルながら、ダイナミックな音量で演奏を楽しめます。付属のソングカートリッジで曲データの再生も可能です。

仕様

ストラムプレート /メロディーキーボードボイス	4オクターブ
ストラムプレート音色	100GM音色
コードボタン	36ソフトタッチボタン、84コード:メジャー、マイナー、 7th, メジャー7th, マイナー7th, オーギュメント、 デミニッシュ
リズム	10リズム
コントロール	マスターボリューム、ストラムプレートボリューム、ストラムプレートサステーン、リズムボリューム、リズムテンポ、バスボリューム、コードボリューム、コードプラスボリューム、リバーブデプスコントロール、ビブラートデプスコントロール、ピッチベンドホイール、トランスポーズ、チューニング、オクターブシフト
ボタンコントロール	電源、デモ、ストラムプレート、ボイスセレクト、リズムスタイルセレクト、リズムファイル、リズムイントロ/エンド、スタート/ストップ
ソングカートリッジ機能	Qカードプレイ/ポーズ、Qカードサーチアップ/ダウン、ストップ
エフェクト	リバーブ、ビブラート、ピッチベンドホール
その他機能	リズムフィル、リズムイントロ/エンド、ピッチベンドホイール、 MIDI IN、MIDI OUT、トランスポーズ、チューニング、 オクターブシフト
ディスプレイ	2桁LCD、2LEDライトバー、12LED
出力	7ワット、5“楕円形スピーカー(バスポート付き)
ジャック	A/Cアダプター、アウトプット、MIDI IN、MIDI OUT
消費電力	12 ボルトDC、単2乾電池8個又は OCA-2 専用アダプター(12V、400mA)
サイズ	54cm(L)×30cm(W)×5.4cm(H)
重量	1.5kg
付属品	Qカードソングカートリッジ、単2乾電池×8個
別売品	Qコードハードケース(QCC)、Qコードストラップ(QCS)、ACアダプタ(OCA-2)

各部の名称とはたらき

■ MASTERS

- ① 主電源 (メインスイッチ)
電源を入/切します。
- ② デモ
デモ曲の演奏を入/切します。
- ③ ボリューム (マスターコントロール)
全体の音量を調節します。

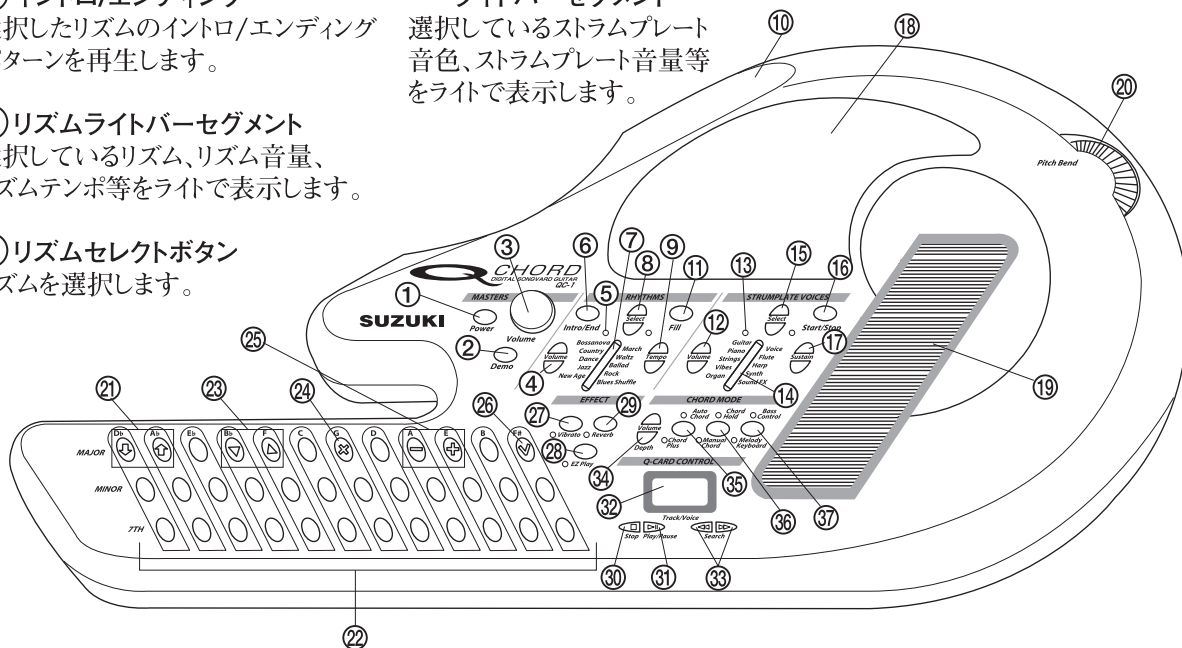
■ RHYTHMS

- ④ リズムボリューム (アップ/ダウン)
リズムの音量を調節します。
- ⑤ リズムバンク (LED表示、2個)
現在選択されているリズム、リズムテンポ等を点灯もしくは点滅で表示します。
- ⑥ イントロ/エンディング
選択したリズムのイントロ/エンディングパターンを再生します。
- ⑦ リズムライトバーセグメント
選択しているリズム、リズム音量、リズムテンポ等をライトで表示します。
- ⑧ リズムセレクトボタン
リズムを選択します。

- ⑨ テンポ (アップ/ダウン)
リズムテンポを調節します。
- ⑩ バスポート
- ⑪ フィル
選択したリズムのフィルパターンを再生します。

■ STRUMPLATE

- ⑫ ストラムプレートボリューム
ストラムプレートの音量を調節します。
- ⑬ ストラムプレートバンク (LED表示、2個)
現在選択されているストラムプレート音色、ストラムプレート音量等を点灯で表示します。
- ⑭ ストラムプレート
ライトバーセグメント
選択しているストラムプレート音色、ストラムプレート音量等をライトで表示します。
- ⑮ ストラムプレートセレクトボタン
ストラムプレート音色を選択します。
- ⑯ スタート/ストップ
デモ曲やリズム、ストラムプレート音等の再生をスタート/ストップします。
- ⑰ ストラムプレートサスティーン
ストラムプレート音色のサスティーンの長さを調節します。
- ⑱ スピーカーグリル
- ⑲ ストラムプレート
プレートの上を、指を滑らせたり、指でかるくたたくようにすると選択した音色で音が鳴ります。
- ⑳ ピッチベンドホイール
ストラムプレートで鳴らした音のピッチをベンドします。



各部の名称とはたらき

■ CHORD BUTTONS

- ⑳ トランスポーズ
移調ができます。
- ㉑ コードボタン
コードを選択します。
- ㉒ チューニングボタン
調律ができます。
- ㉓ MIDIエクスペンダーコントロール
本製品を音源として使用する場合に使用します。
- ㉔ オクターブシフト
(ストラムプレート/キーボード)
ストラムプレートとメロディーキーボードの音域を
1オクターブ上げ下げできます。
- ㉕ ストラムプレート音色ボタン
⑮で選択できる音色以外の音色を追加できます。

■ EFFECT BUTTONS

- ㉖ ビブラートボタン
ストラムプレート音にビブラート効果をかけます。
- ㉗ イージープレイボタン
このボタンを押した後、コードボタンを押すと、選択した
コード音が確認できます。
- ㉘ リバーブボタン
ストラムプレート音にリバーブ効果をかけます。

■ Q CARD CONTROL

- ㉙ ストップボタン
Qカードソングカートリッジで再生されている曲を停止
します。
- ㉚ プレイ/ポーズボタン
Qカードソングカートリッジを再生/一時停止します。
- ㉛ トラック/ボイス番号ディスプレイ
Qカードソングカートリッジの再生曲番、トランスポーズ、
チューニング等の数値を表示します。
- ㉜ サーチボタン(ダウン/アップ)
Qカードソングカートリッジの再生曲を選択します。

■ CHORD MODE

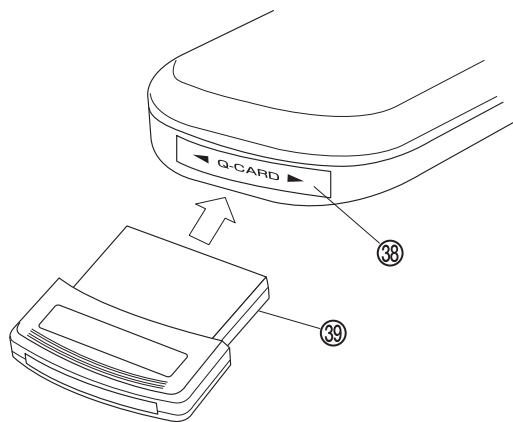
- ㉝ コードボリューム/デプスボタン
コードモードのボリューム、リバーブ効果の深さ等を調節
します。
- ㉞ オートコード/コードプラスボタン
コード演奏時の様々な設定を行います。
- ㉞ コードホールド/マニュアルコードボタン
コード演奏時の様々な設定を行います。
- ㉟ バスコントロール/メロディーキーボードボタン
ベース音の設定、メロディーキーボードの設定等を行います。

各部の名称とはたらき

■ Q CARD

③⑧ Qカードソングカートリッジスロット (挿入口)
付属のQカードソングカートリッジの挿入口です。

③⑨ Qカードソングカートリッジ
付属のQカードソングカートリッジです。
8曲内蔵されています。

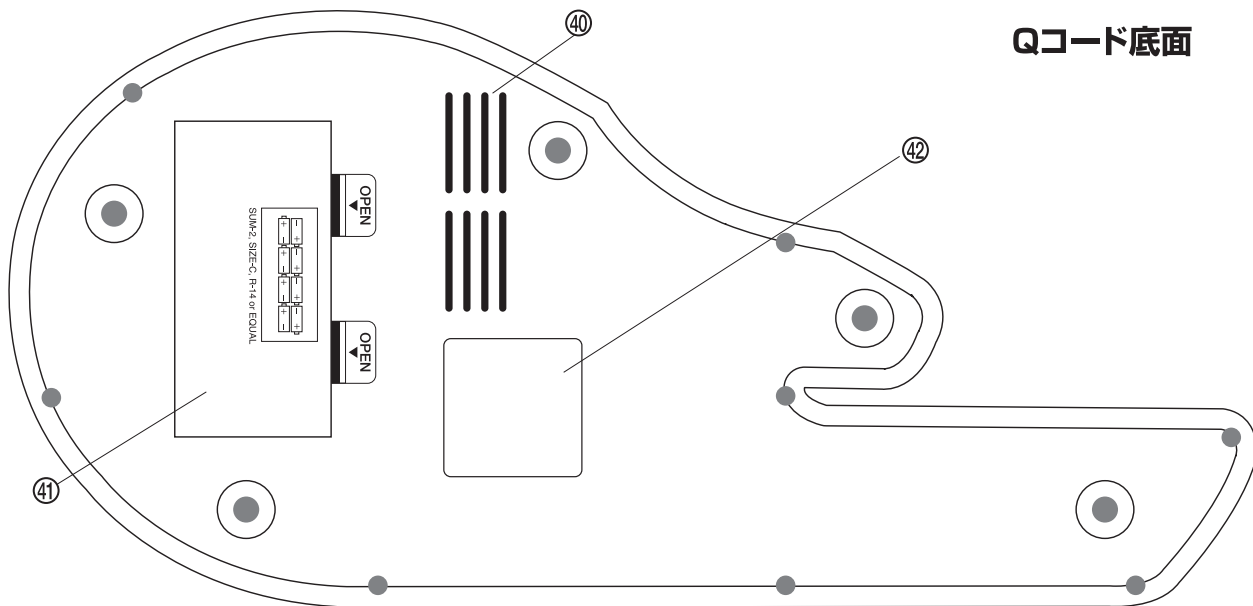


■ BOTTOM VIEW (底面)

④⑩ バスポート

④⑪ 電池蓋
乾電池の出し入れの際には、この蓋を開閉します。
単2乾電池が8個入ります。

④⑫ 識別ラベル
シリアルナンバーが記載されています。



Qコード底面

各部の名称とはたらき

■ ジャックパネル

④③ アダプタ入力

Qコードを別売のACアダプタ(OCA-2)で使用する場合、このジャックへ差し込みます。アダプタを差し込むと電池からの入力は自動的に切れます。

④④ MIDI OUT

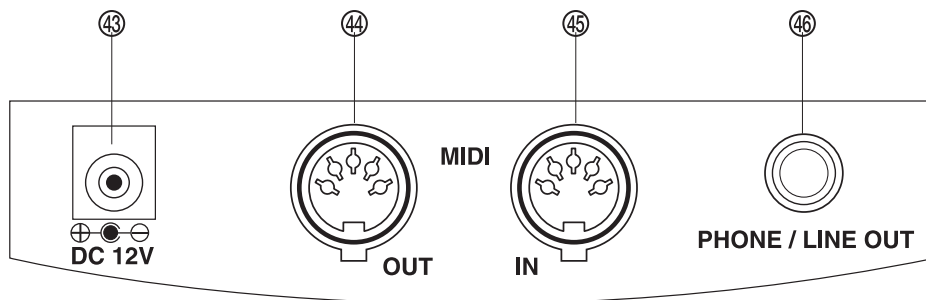
QコードのMIDIデータを送信します。

④⑤ MIDI IN

外部MIDI機器からのMIDIデータを受信します。

④⑥ ヘッドホン/ラインアウト

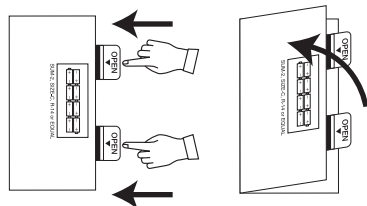
ヘッドホン、また外部スピーカー等をつなげる場合に使用します。



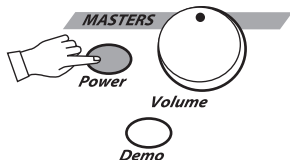
ジャックパネル (Qコード本体側面)

ご使用になる前に

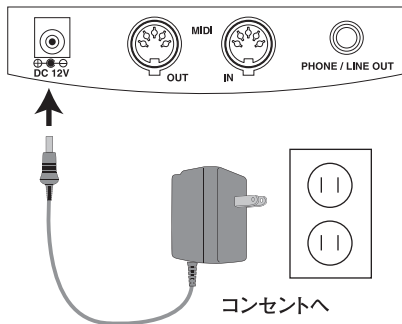
Qコードは、単2乾電池が8個同梱されておりますので、箱から取り出して直ぐに演奏することが出来ます。
同梱されている乾電池を使用するか、又は別売のQコード専用ACアダプタ(OCA-2)を使用して下さい。



- ### 電池の入れ方
- 1 本体の裏側にある電池蓋の2つのつまみを押し、蓋を取り外します。
 - 2 同梱の8個の単2乾電池を、電池蓋に明記されている図のように入れます。
そして、電池蓋をしめます。



- 3 本体を表に向け、電源ボタンを押します。
電気が入らない場合は、挿入された電池が正しく入っているかどうか確認して下さい。



- ### ACアダプタの取り付け方
- 1 ACアダプタの一方のプラグをコンセントに差し込みます。もう1つのプラグを本体のジャックパネルのアダプタ入力に差し込みます。
 - 2 本体を表に向け、電源ボタンを押します。
必ずQコード専用のアダプターをお使い下さい。専用以外のアダプタを使用すると本体を損傷する事があります。ACアダプタの仕様はP2をご参照ください。

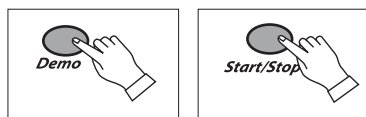
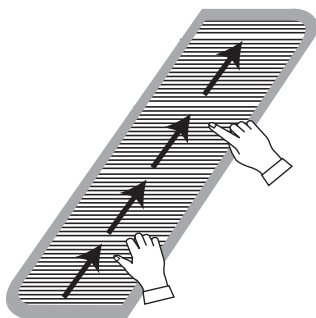
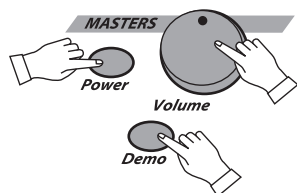
Qヒント

外装カートンから本体、電池、取扱説明書等を取り出したら、そのカートン及び発砲スチロールを捨てないで保存しておくことをおすすめします。後日持ち運びする際のケースとして利用できます。

デモソングの再生 1

デモソングを聴いてみましょう

Qコードにはデモソング(ビートルズ“Michell”)が内蔵されています。



「デモ」か「スタート/ストップ」を押す

デモソングの再生

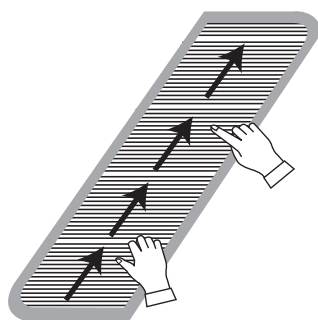
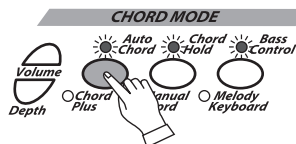
- 1 電源スイッチを入れ、音量を中央に合わせます。
- 2 「デモ」を押します。デモソングが再生されます。
- 3 「ストラムプレート」に親指や人差指を滑らせたり、指で軽くたたきようにしてください。
デモソングのピッタリのコードで音を鳴らせます。
- 4 もう一度「デモ」を押すか、「スタート/ストップ」を押すと再生が停止します。

デモソングの再生 2

デモソングのメロディラインを消して再生してみましょう

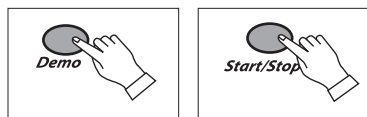
メロディラインの消し方

- 1 電源スイッチを入れ、音量を中央に合わせます。
- 2 「オートコード/コードプラス」ボタンを1回押します。
「コードプラス」LEDが消え、曲のメロディーラインが消えたことを示します。
- 3 「デモ」を押し、デモソングを再生します。
メロディーライン無しで再生されます。



- 4 「ストラムプレート」で音を鳴らします。
デモソングのピッタリのコードで音を鳴らせます。
メロディーラインをハミングしたり歌ったりしながら演奏してみましょう。

もう一度「デモ」を押すか、「スタート/ストップ」を押すと再生が停止します。



「デモ」か「スタート/ストップ」を押す

Qカードソングカートリッジの再生

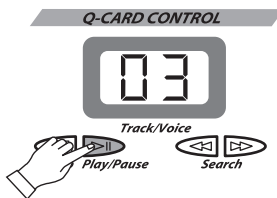
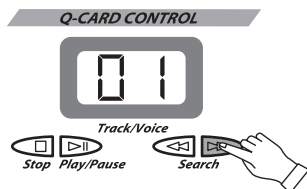
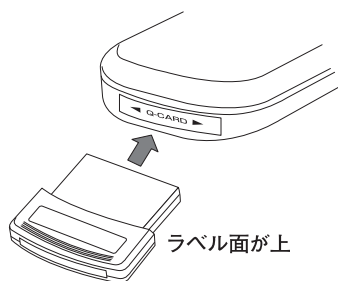
「Qカードソングカートリッジ」を使ってみましょう

本製品に付属の「Qカードソングカートリッジ」(以下ソングカートリッジ)には8曲収録されています。

内蔵曲

1. Yesterday
2. We Can Work It Out
3. Let It Be
4. With A Little Help From My Friends
5. Hey Jude
6. Hard Days Night

ソングカートリッジの内蔵曲を再生してみましょう



「停止(ストップ)」か「スタート/ストップ」を押す

- 1 電源を切ってください。ソングカートリッジのラベル側を上にして挿入口へ差し込みます。奥までしっかりと入れてください。

- 2 電源を入れます。
ソングカートリッジが正しく差し込まれていれば、ディスプレイに「01」と表示されます。「サーチボタン」で聴きたい曲を選びます。

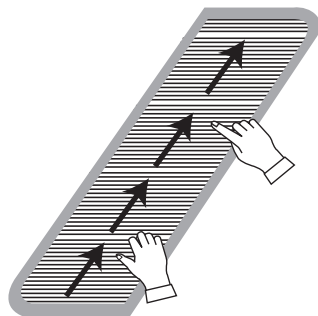
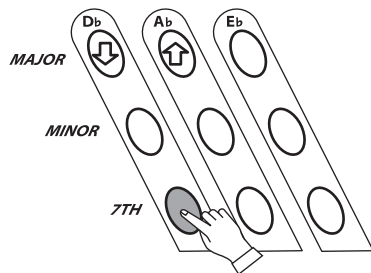
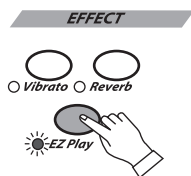
- 3 音量を中央に合わせ、「再生(プレイ)」を押します。
曲が再生されます。

- 4 「ストラムプレート」で音を鳴らします。
再生中の曲にピッタリのコードで音を鳴らせます。

「停止(ストップ)」を押すか、「スタート/ストップ」を押すと再生が停止します。

演奏の仕方・・・イージープレイ

「イージープレイ」は、Qコードを演奏する最初のステップとして便利な機能です。この機能は、選択したコードとストラムプレートのみが演奏できるようにする機能で、コードの位置や音を確認するなど、コード練習に最適です。



イージープレイの使い方

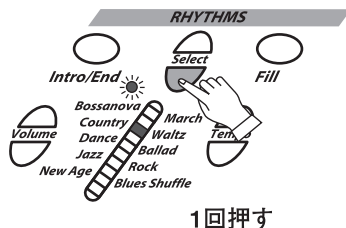
- 1** 電源を入れ「イージープレイ」ボタンを押します。
コードとストラムプレートのみが演奏できるようセットされます。
- 2** いずれかの「コードボタン」を押します。
押したコードの持続音が鳴ります。※
※コードの持続音を鳴らさず、ストラムプレートのみを鳴らしたい場合はP18をご参照ください。
- 3** 「ストラムプレート」を鳴らします。
2で選択したコードにぴったりと合う音が鳴ります。
違うコードボタンを押し、ストラムプレートを鳴らしてみましょう。
コードによって、ストラムプレート音も変化するのが分かります。
「スタート/ストップボタン」を押すと発音が止まります。

演奏の仕方・・・イージープレイ

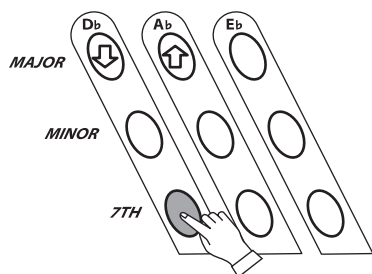
イージープレイ機能では、コードボタンを押した時に鳴る音(コード音)を変えることができます。

コード音の音色を変えるには

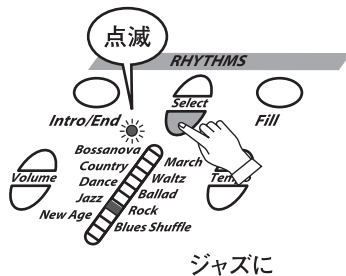
- 1 「リズムセレクトボタン」の「ダウンボタン」を1回押します。
「リズムライトバーセグメント」のLEDが「Country(カントリー)」を指します。



- 2 コードボタンを押してみましょう。
コード音はストリング音からオルガンに変わったのが分かります。

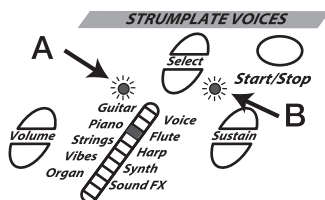
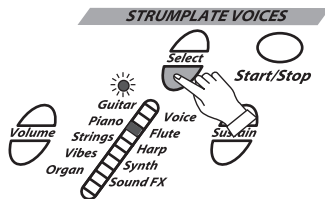


- 3 「リズムセレクトボタン」を使って他のリズムに変え、コード音を鳴らしてみましょう。



演奏の仕方・・・ストラムプレート

Qコードの最大の特徴である「ストラムプレート」。ストラムプレートは指で軽く触れるだけで、即座に反応します。「コードボタン」もしくは「デモボタン」を押した時、また「ソングカートリッジ」を再生した時にもストラムプレートを演奏することができます。内部には100個のストラムプレート音色を内蔵、音域は4オクターブです。



ストラムプレート音色の選択とボリューム調節

- 1 電源を入れ、「ストラムプレートセレクトボタン」の「ダウンボタン」を押してください。

1回押すと、LED区分が「ギター」から「ピアノ」へ変わります。

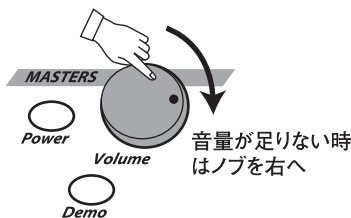
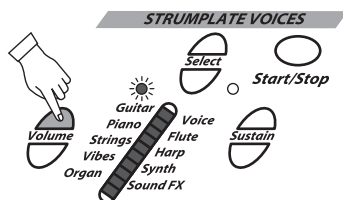
- 2 さらに1回押す毎にピアノから「ストリングス」→「バイブズ(ビブラフォン)」→「オルガン」→「ボイス」→「シンセ」→「ハープ」→「フルート」→「サウンドFX」の順に変わります。

この時「ギター」から「オルガン」までの音色が選択されている時には、左側の「ストラムプレートバンクLED」(左図A)が、「ボイス」から「サウンドFX」までの音色が選択されている時には、右側の「ストラムプレートバンクLED」(左図B)がそれぞれ点灯します。

- 3 「アップボタン」押していくと「ギター」に戻ります。「ダウンボタン」を押した時とは逆の順番に音色が選択されていきます。

Qヒント

アップ/ダウンの両ボタンとも、長押しすると、音色を素早く変えられます。



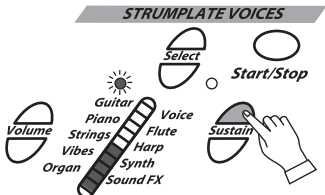
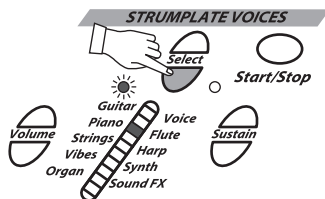
- 4 「ストラムプレートボリューム」の調節をします。「ストラムプレートボリューム」の「アップボタン」を「リズムライトバーセグメント」のLEDが全て点灯するまで押してください。これがストラムプレートの最大音量です。これ以上の音量が必要な時は、マスターボリュームノブを右へ回してください。

Qヒント

「リズムライトバーセグメント」の各LEDには、4段階の音量が含まれますので、10LED分全てで40段階の音量調節ができます。

演奏の仕方・・・ストラムプレート

ストラムプレート音色のサステインは、あらかじめ最適な長さに設定されていますが、好みの長さに調節することも可能です。



サステインの調節

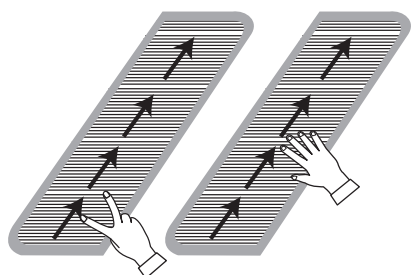
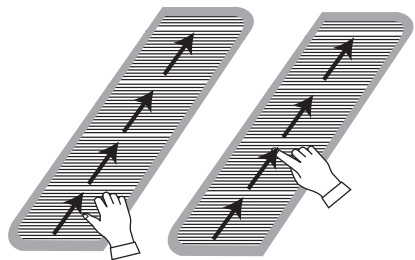
- 1 サステインの長さを変えたい音色を選びます。
- 2 「サステイン」の「アップボタン」を1回押してください。
ボタンを1回押すと、設定されたサステインレベルが「リズムライトバーセグメント」のLEDで表示されます。
「イージープレイボタン」→「コードボタン」(P13参照)で「ストラムプレート」を弾いて、サステインの長さを感じてください。
- 3 「アップ/ダウンボタン」で長さを調節します。
サステインの長さを伸ばすには「アップボタン」を、短くするには「ダウンボタン」を押してください。
- 4 再び「イージープレイボタン」→「コードボタン」で「ストラムプレート」を弾いてください。
サステインの長さが変化しているのが分かります。

Qヒント

「リズムライトバーセグメント」の各LEDには、4段階の長さが含まれますので、10LED分全てで40段階の長さ調整ができます。

演奏の仕方・・・ストラムプレート

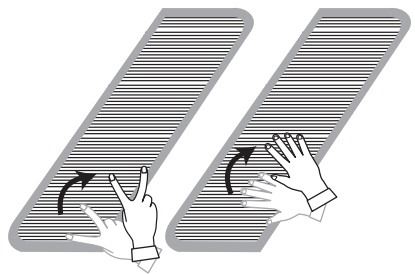
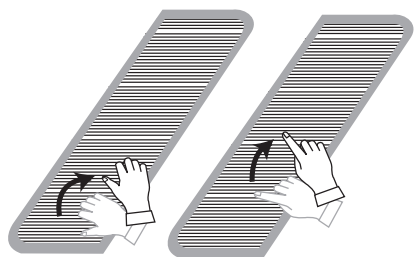
ストラムプレートを演奏する様々なテクニックを紹介します。曲に合わせて、どのような演奏法が良いか、いろいろと試してみましょう。



指をスライドさせる

スライド演奏

- 1 「イージープレイボタン」→「コードボタン」で演奏の準備をします。
- 2 「ストラムプレート」の下から上に向かって、親指か人差指をスライドさせ、音を鳴らします。
- 3 指を二本にしたり、三本にしたりして同じようにスライドさせてみましょう。また、指を広げたり、つぼめたりして試してみましょう。より多くの指を使うことで、コード音がより豊かになります。



軽くたたくように

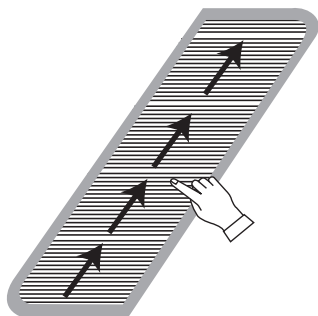
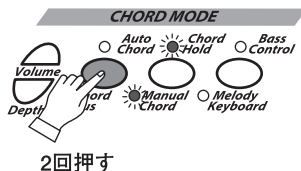
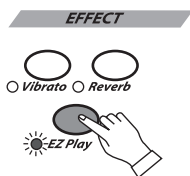
タッチ演奏

- 1 「イージープレイボタン」→「コードボタン」で演奏の準備をします。
- 2 指の腹を使ってテーブルをたたくように「ストラムプレート」をたたいて演奏してみましょう。
- 3 スライド演奏と同様に、たたく指の本数を変えて演奏してみましょう。

スライド演奏、タッチ演奏を楽しく練習しながら、独自の演奏法を探ってみてください。様々な表現が可能です。

演奏の仕方・・・ストラムプレート

「イージープレイボタン」→「コードボタン」で「ストラムプレート」を演奏する場合、ボタンを押したコードの持続音が鳴りますが、この持続音を鳴らさず、ストラムプレートのみを鳴らしたい場合は、以下の設定をしてください。



ストラムプレート音のみの演奏

- 1 「イージープレイボタン」を押します。
- 2 「オートコードボタン」を2回押します。
「オートコード」と「コードプラス」のLEDは消え、「コードホールド」と「マニュアルコード」のLEDのみ点灯します。
- 3 いずれかの「コードボタン」を押し、「ストラムプレート」を鳴らしてみましょう。
コードの持続音は消え、ストラムプレート音のみを聞くことができます。

Qヒント

「ストリングス」や「オルガン」など、音色によっては、「ストラムプレート」に触れているだけで持続音が鳴る音色があります。このような音色は、持続音を鳴らしたまま、違う「コードボタン」を押すと、コード音が変わります。

演奏の仕方・・・ストラムプレート

リバーブ効果は、音が壁や天井に反響したり、はね返ったりする、大きなホールでの演奏をシミュレートするものです。リバーブ効果はビブラート効果よりも微妙な効果ですので、サスティーンを1〜2レベルに落とすと、より明確になります。(P16参照)

リバーブ効果をかける

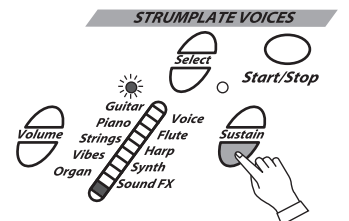
- 1 ストラムプレート音のみの演奏をする設定にします。(P18参照)
- 2 「サスティーン」の「ダウンボタン」をLEDが1個になるまで押してください。(P16参照)
- 3 「ストラムプレート」を鳴らしてみましょう。
音をよく感じてください。
「リバーブボタン」を切って「ストラムプレート」を鳴らしてみましょう。
違いが分かると思います。

Qヒント

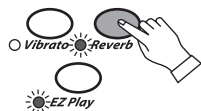
「リバーブ」は微妙な効果ですが、重要な効果でもあります。演奏の邪魔にならない限り、リバーブ効果を使用することをおすすめします。

リバーブの深さを変える

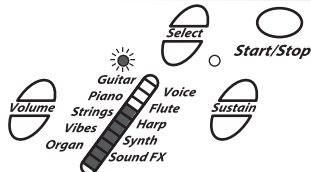
- 1 「リバーブボタン」を押します。
- 2 「ストラムプレートライトバーセグメント」に現在のリバーブの深さが表示されている2秒間に、「コードモード」の「ボリューム」で調節します。
「アップボタン」でより深いリバーブに、「ダウンボタン」でより浅いリバーブになります。



EFFECT

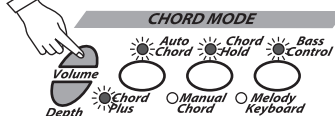


STRUMPLATE VOICES



現在のリバーブの深さが2秒間表示

その間にリバーブの深さを調節

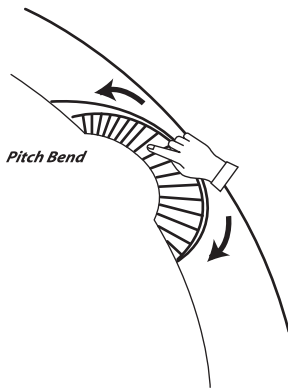


演奏の仕方・・・ストラムプレート

ピッチベンドホイールを用いて、ストラムプレートのピッチを変えることができます。この効果はギター「バンド」によく似ています。

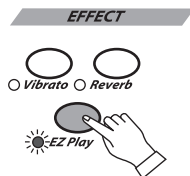
ピッチベンドホイールの使い方

- 1 「イージープレイボタン」→「コードボタン」で「ストラムプレート」を鳴らしてください。
- 2 「ピッチベンドホイール」を指で上下どちらかに回します。
ピッチが変わるのが分かります。
ストラムプレート音のピッチは「ピッチベンドホイール」を上へ回すと上がる、または#になります。下へ回すとストラムプレート音のピッチは下がる、またはbになります。



演奏の仕方・・・コード演奏

Qコードは84種類のコードを演奏できます。まずは1本指でのコード演奏から始めます。
「聖者の行進」で練習してみましょう。



ワンフィンガーコード演奏

- 1 「イージープレイボタン」を押します。
- 2 「聖者の行進」の歌詞の上に記してあるコードの「コードボタン」を順番に押さえていきます。
コード音が鳴ります。
「スタート/ストップボタン」を押すと発音が止まります。
- 3 2のコードに合わせて「ストラムプレート」を鳴らしましょう。
- 4 3ができるようになったら、演奏しながら歌を歌ってみましょう。

【聖者の行進】

C
Oh when the Saints __ go mrach-ing in,

G7
Oh when the Saints __ go mrach-ing in, __

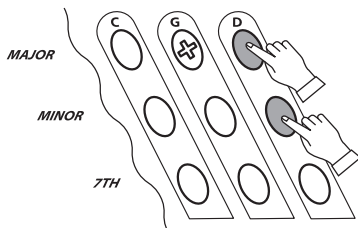
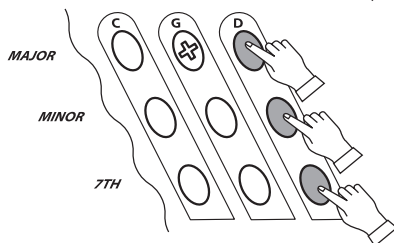
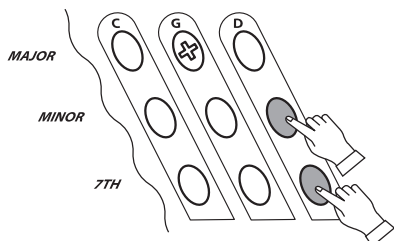
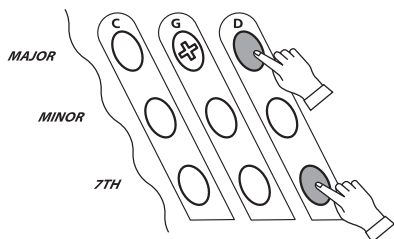
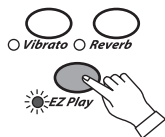
C C7 F
Oh I want to be in that number ____

C F G7 C
__ when the saints go march-ing in. __

演奏の仕方・・・コード演奏

2本以上の指を使ったコード演奏をしてみましょう。Qコードはメジャーセブンス、マイナーセブンス、オーギュメント、デミニッシュを含んだ、より複雑なコード演奏が可能です。これらのコードを演奏するには、同時に2個または3個のコードボタンを押さえます。

EFFECT



マルチフィンガーコード演奏

- 1 「イージープレイボタン」を押します。
- 2 メジャーセブンスコードを鳴らしてみましょう。
メジャーとセブンスのコードボタンを同時に押します。(上と下の並び)
左図はCメジャーセブンスコード(C Maj7)です。
- 3 マイナーセブンスコードを鳴らしてみましょう。
マイナーとセブンスのコードボタンを同時に押します。(真ん中と下の並び)
左図はGマイナーセブンスコード(G Min7)です。
- 4 オーギュメントコードを鳴らしてみましょう。
メジャー、マイナー、セブンスのコードを同時に押します。(上、真ん中、下の並び)左図はAオーギュメントコード(A aug)です。
- 5 デミニッシュコードを鳴らしてみましょう。
メジャーとマイナーのコードを同時に押してください。(上と真ん中の並び)
左図はDデミニッシュコード(D dim)です。

演奏の仕方・・・リズム

Qコードには内蔵リズムが10個あります。

リズムの選択

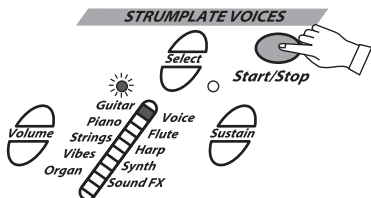
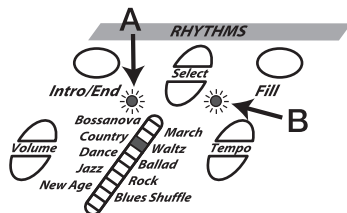
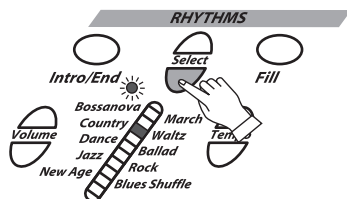
「イージープレイボタン」が押されていたら、解除してください。

- 1 「リズムセレクトボタン」の「ダウンボタン」を押してください。
1回押すと、「リズムライトバーセグメント」のLED区分が「ボサノバ」から「カントリー」へ変わります。
- 2 さらに1回押す毎にカントリーから「ダンス」→「ジャズ」→「ニューエイジ」→「マーチ」→「ワルツ」→「バラード」→「ロック」→「ブルースシャッフル」の順に変わります。
この時「ボサノバ」から「ニューエイジ」までのリズムが選択されている時には、左側の「リズムバンクLED」(左図A)が、「マーチ」から「ブルースシャッフル」までのリズムが選択されている時には、右側の「リズムバンクLED」(左図B)がそれぞれ点灯します。
- 3 「アップボタン」を押していくと「ボサノバ」に戻ります。
「ダウンボタン」を押した時とは逆の順番にリズムが選択されていきます。

Qヒント

アップ/ダウンの両ボタンとも、長押しすると、リズムを素早く変えられます。

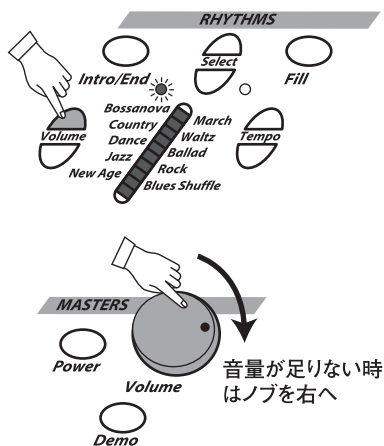
- 4 「スタート/ストップボタン」を押します。
リズムがスタートします。
もう一度「スタート/ストップボタン」を押すと、リズムが止まります。



演奏の仕方・・・リズム

ボリューム調節

- 1 「リズムセレクトボタン」でリズムを選択し、「スタート/ストップボタン」でリズムを再生します。
- 2 「リズムボリューム」の「アップボタン」を「リズムライトバーセグメント」のLEDが全て点灯するまで押してください。これがリズムの最大音量です。これ以上の音量が必要な時は、マスターボリュームノブを右へ回してください。



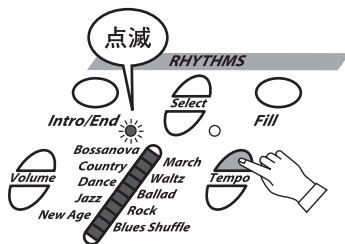
Qヒント

「リズムライトバーセグメント」の各LEDには、4段階の音量が含まれますので、10LED分全てで40段階の音量調節ができます。

リズムテンポ

- 1 「リズムセレクトボタン」でリズムを選択し、「スタート/ストップボタン」でリズムを再生します。
- 2 「リズムテンポボタン」の「アップボタン」を「リズムライトバーセグメント」のLEDが全て点灯するまで押してください。これがリズムのもっとも速いテンポです。「ダウンボタン」を押すとテンポは遅くなっていきます。リズムのテンポに合わせて、「リズムバンクLED」も点滅します。

テンポに合わせて点滅

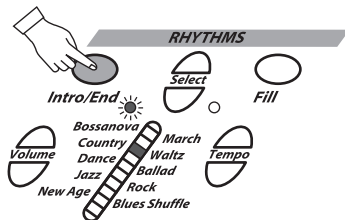


Qヒント

「リズムライトバーセグメント」の各LEDには、4段階のテンポが含まれますので、10LED分全てで40段階のテンポ調節ができます。

演奏の仕方・・・リズム

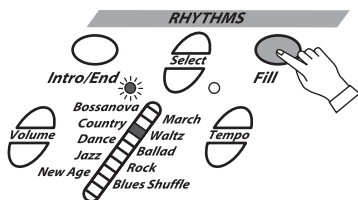
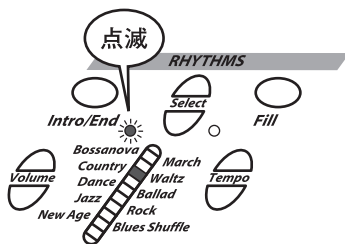
各リズムにはそれぞれ「イントロ/エンディング」パターンと「フィル」パターンがあり、リズム演奏にアクセントを加えることができます。



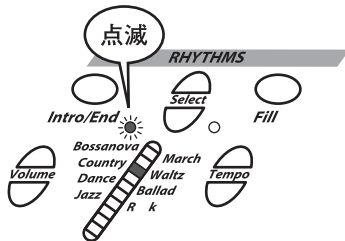
STRUMPLATE VOICES



イントロまたはエンディング再生中は
LEDが速く点滅



フィルパターン再生中は
LEDが速く点滅



イントロ/エンディングパターン

- 1 選択したリズムのイントロ部分のみのドラムを聞くには、「イントロ/エンドボタン」を押してから「スタート/ストップボタン」を押してください。選択したリズムのイントロドラムパターンが再生されたあと、通常のリズムを再生します。リズムの再生を停止するには、もう一度「スタート/ストップボタン」を押してください。

- 2 リズムの再生中にもう一度「イントロ/エンドボタン」を押します。エンディングドラムパターンが再生され、リズムが停止します。

Qヒント

イントロ、もしくはエンディングパターンの再生中には「リズムバンクLED」が速い速度で点滅します。

フィルパターン

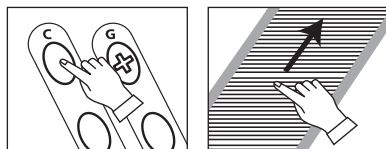
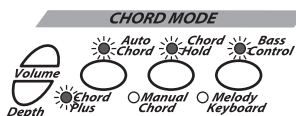
- 1 選択したリズムのフィルドラムパターンを聞くには、リズムの再生中に「フィルボタン」を押してください。選択したリズムのフィルドラムパターンが再生されたあと、通常のリズムを再生します。リズムの再生を停止するには、もう一度「スタート/ストップボタン」を押してください。
- 2 フィルドラムパターンを続けて再生したい場合は、「フィルボタン」を押し続けます。指を離すまで、フィルドラムパターンが繰り返し再生されます。

Qヒント

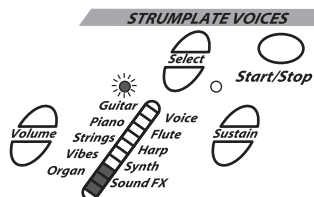
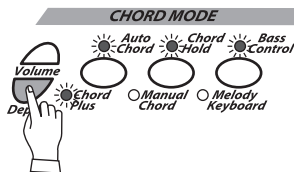
フィルパターンの再生中には「リズムバンクLED」が速い速度で点滅します。

演奏の仕方・・・コードモード

10個のリズムスタイルにはそれぞれの伴奏パターンがあります。この伴奏パターンは、バス、コード伴奏、コードプラストラックから成り立っています。



伴奏演奏をしながら



現在の伴奏ボリュームを
2秒間表示

伴奏演奏

- 1 左図で設定されているコードモードになるようボタンを押し、いずれかの「コードボタン」を押してください。伴奏演奏が再生されます。このコードモードは初期設定で、全ての伴奏パターンを聞くことができます。Qコードの電源を入れると自動的にこのコードモードになります。

伴奏ボリューム調節

- 2 伴奏演奏をしながら、「コードモードボリュームボタン」の「ダウンボタン」を押してください。これは、バス、コード、コードプラスの全ての伴奏音量を下げます。

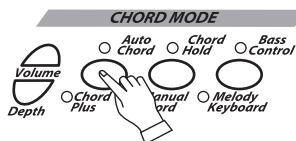
Qヒント

「ストラムプレートライトバーセグメント」は、「コードモードボリュームボタン」を押した後、2秒間、伴奏ボリュームレベルを表示します。その後、選択しているストラムプレートボイス表示に戻ります。

Qヒント

「コードモードボリューム」はストラムプレートボリューム (P15)、もしくはリズムボリューム (P25) のページで記述した詳細と同様の機能をします。

演奏の仕方・・・コードモード



オートコードボタン

このトラックはコード伴奏を再生します。選択したリズム、コード音にふさわしいコードを再生します。通常、ギター、ストリング、ピアノ、ブラス、アコーディオン等の楽器音が再生されます。

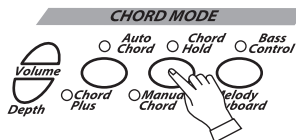
コードプラスボタン

このトラックは、選択されたリズムスタイルにさらに味を加えます。

Qヒント

オートコード/コードプラスボタンには、4つの位置があります。

- 1) オートコードon / コードプラスon
- 2) オートコードon / コードプラスoff
- 3) オートコードoff / コードプラスon
- 4) オートコードoff / コードプラスoff



コードホールドボタン

「コードホールドボタン」on時は「コードボタン」から指を離しても、次の「コードボタン」を押さえるまで、そのコード音をホールド(維持)します。

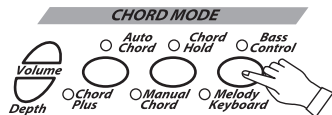
マニュアルコードボタン

選択したコードを伴奏無しでコード音のみ発音させる時に使います。この時に発音する音色は、「リズム」を変えると変更できます。

Qヒント

「コードホールドボタン」、「マニュアルコードボタン」の両方をoffしている時でも、「コードボタン」を押さえると、「伴奏トラック」はコード伴奏を再生しますが、「コードボタン」から指を離すと同時にコード伴奏の再生は停止します。

演奏の仕方・・・コードモード



バスコントロールボタン

このトラックは、選択されたリズムスタイルの低音ラインを演奏します。リズムの種類によって、このトラックで演奏される音は変化しますが、通常は、アコースティックバス、フレットレスバス、スラップバス、エレキバス等です。

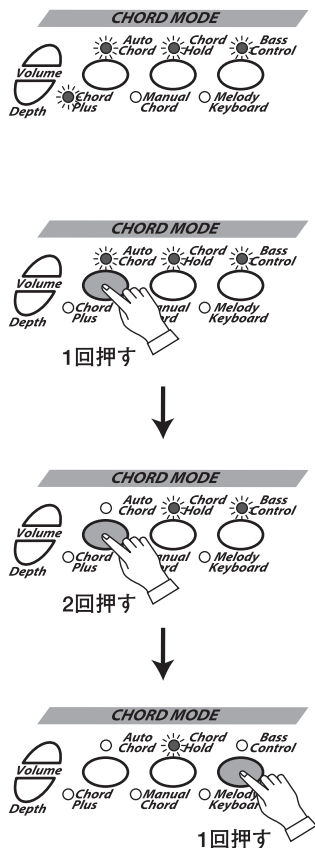
Qヒント

メロディキーボードLEDが点灯しているとき、伴奏の機能とストラムプレートは終了されます。（「デモ」か「カートリッジ」機能が使用されていない限り）

※ メロディキーボードに関してはP38で詳しく説明しています。

演奏の仕方・・・コードモード

様々な伴奏トラックの組み合わせで伴奏すれば、曲の表情も変わります。Qコードでは、ドラム・バス、ドラム・コード、コード・バス、コードプラス・バス・ドラムなどの伴奏トラックの組み合わせができます。



初期設定モード

左図で設定されているコードモードになるようボタンを押し、いずれかの「コードボタン」を押してください。伴奏演奏が再生されます。このコードモードは初期設定で、全ての伴奏パターンを聞くことができます。

コード・バス・ドラムのモード

「オートコード/コードプラスワンボタン」を1回押します。「コードプラス」はoffになり、追加伴奏トラックを聞けません。コード、バス、ドラムのみが鳴ります。

バス・ドラムのモード

「オートコード/コードプラスワンボタン」をもう2回押します。「コードプラス」、「オートコード」はoffになります。バス、ドラムのみが鳴ります。

ドラムだけのモード

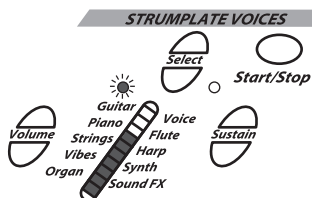
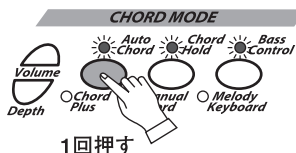
「バスボタン」を1回押します。「バス」はoffになり、ドラムのみが鳴ります。

Qヒント

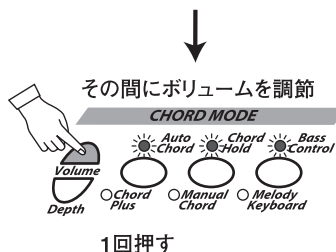
「メロディキーボード」がonの時、コードと伴奏機能はoffになります。

演奏の仕方・・・コードモード

伴奏トラックはそれぞれ音量調節が可能です。バストラックの音量を上げたり、またコード伴奏音量を下げるなど、演奏曲によって、最適な音量バランスにできます。



現在の伴奏ボリュームを
2秒間表示



伴奏トラックボリューム調節の仕方

- 1 「オートコード/コードプラスボタン」を押します。
「オートコード」と「コードプラス」のLEDがそれぞれon/offするのが分かります。
LEDがonのとき、「オートコード」もしくは「コードプラス」のそれぞれのボリュームレベルを表示するため、「ストラムプレートライトバーセグメント」のLEDライトが2秒間点灯します

- 2 「ストラムプレートライトバーセグメント」のLEDが点灯している間に「コードモードボリュームボタン」の「アップボタン」を押してください。
同様に「バス」の音量も調節できます。

Qヒント

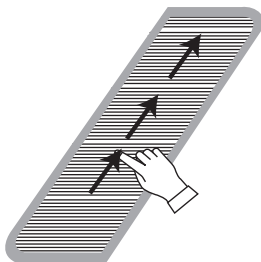
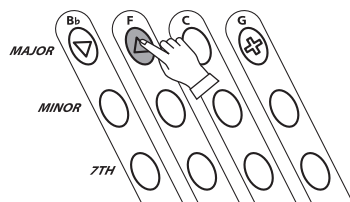
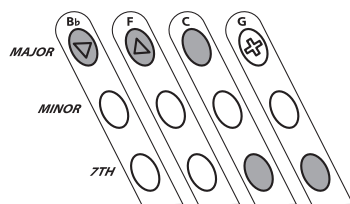
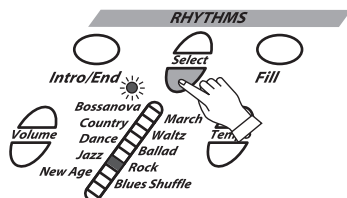
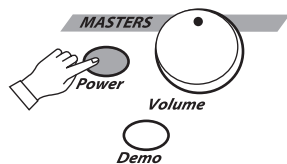
コードホールド、マニュアルコード、メロディキーボードには、音量調節機能はついていません。

Qヒント

メロディキーボードon時は、伴奏機能とストラムプレートは使えなくなります。
※デモ、ソングカートリッジ機能が連動する場合は除きます。

演奏の仕方・・・バンド演奏

ここまで説明してきた機能をふまえて、ここで演奏までの簡単なステップをまとめます。全ての伴奏トラックを使用して演奏します。次ページに楽譜(I'D LIKE TO TEACH THE WORLD TO SING)があります。この楽譜で演奏の練習をしてみましょう。(P22の「聖者の行進」で演奏していただいても結構です。)



Qコードクイック設定

1 電源を一旦切ります。5秒待ってから再び電源を入れます。

2 「リズムセレクトボタン」の「ダウンボタン」を3回押します。「ジャズ」が選択され、LEDが点灯しています。

3 「コードボタン」の位置を確認し、慣れておきましょう。この楽譜で使用するコード音は「F」「G7」「C」「C7」「Bb」で、楽譜の上に明記されている通りの順番、タイミングで押さえていきます。これらの「コードボタン」の位置を確認しておきます

4 楽譜の最初に出てくるコード音「F (major)」を押さえます。

5 「ストラムプレート」を鳴らします。

Qヒント

テンポに付いていくのが難しい場合、最初はテンポをゆっくりにして「コードボタン」を押さえる練習し、その後徐々にテンポを上げていき、それからストラムプレートを鳴らしてみましょう。

演奏の仕方・・・バンド演奏

メロディを歌ったり、ハミングしながら、歌詞の上を書いてあるコードボタンを、タイミングよく、順に押さえていきましょう。

I'D LIKE TO TEACH THE WORLD TO SING (in perfect harmony)

words and music by B.Backer, B.Davis, R.Cook and R. Greenaway

F **G7**

1. I'd like to build the world a home- and fur-nish it with love, —
 like to teach the world to sing- in per-fect har-mo-ny, —
 like to see- the world for once- all stand-ing hand in hand, —

C7 **B♭**

— grow ap-ple trees - and hon-ey bees- and snow-white tur-tle doves
 I'd like to hold-it in my arms- and for
 and hear them ech-o through the hills -

C7 **B♭** **F** **B♭**

2. I'd keep it com-pa-ny, — 3. I'd peace through-out the land, —

F **G7**

— That's the song I hear, — let the world sing to-day, —

C

— A song of peace that ech-oes on — and

B♭ **F**

nev-er goes a-way, — 4. I'd like to see — the world —

G7

— for once — all stand-ing hand in hand, — and

C7 **B♭** **F**

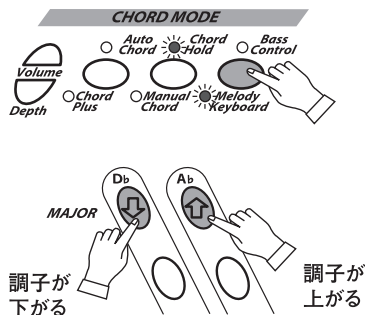
hear them ech-o through the hills — for peace through-out the land

演奏の仕方・・・その他の機能

Qコードには「トランスポーズ」、「チューニング」、「MIDIエクスペンダー」(P41に記載)、「オクターブシフト」の機能があり、それぞれの使い方については以下の通りです。

トランスポーズ (移調機能)

Qコードでは、調子を6半音階上げる、または5半音階下げることができます。「A♭メジャーボタン」を1回押す毎に半音階上がり、「D♭メジャーボタン」を1回押す毎に半音下がります。



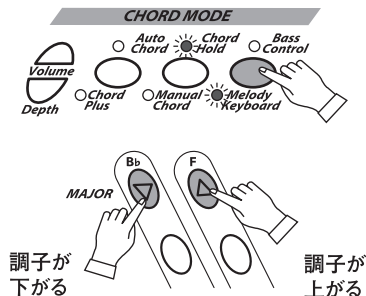
- 1 「メロディキーボードボタン」を押し、LEDを点灯させます。
- 2 「A♭メジャーボタン」を1回押します。
ディスプレイには「1」と表示され、Qコードで鳴らせる音階が半音上がります。
- 3 もう一度「メロディキーボードボタン」を押し、LEDを消灯させます。
「コードボタン」を押して「ストラムプレート」を鳴らすと、半音階上がったストラムプレート音を聞くことができます。
- 4 「D♭メジャーボタン」を1回押すと、半音下がり、元の音階に戻ります。

Qヒント (トランスポーズの例)

演奏したい曲をEキーからGキーに変換したい時には、「A♭メジャー」を3回押します。「E」→(1回)「F」→(2回)「F#」→(3回)「G」

チューニング

Qコードにはチューニング (調律機能) がついています。「Fメジャーボタン」を1回押す毎に1セント上がり、「B♭メジャーボタン」を1回押す毎に1セント下がります。



- 1 「メロディキーボードボタン」を押し、LEDを点灯させます。
- 2 「Fメジャーボタン」を1回押します。
Qコードの調子は1セント上がります。20回押し、20セント上げておきます。
- 3 もう一度「メロディキーボードボタン」を押し、LEDを消灯させます。
「コードボタン」を押して「ストラムプレート」を鳴らすと、調子が20セント上がったストラムプレート音を聞くことができます。

Qヒント

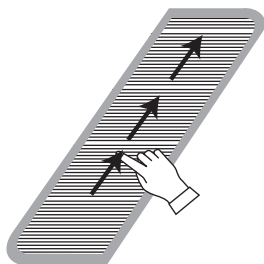
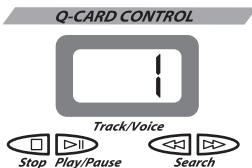
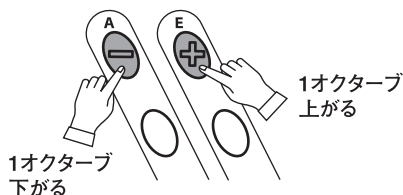
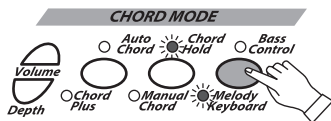
「Fメジャーボタン」と「B♭メジャーボタン」を同時に押すと、元の調子に戻ります。

Qヒント

チューニング機能では、+50セントまで上げること、-40セントまで下げることができます。

演奏の仕方・・・その他の機能

Qコードには、オクターブシフト機能があります。この機能は「ストラムプレート」と「メロディキーボード」の音域を1オクターブ上げたり、1オクターブ下げたりする機能です。



オクターブシフト

1 「メロディキーボードボタン」を押し、LEDを点灯させます。

2 「Eメジャーボタン」を1回押します。
「ディスプレイ」には「1」が表示され、「ストラムプレート」と「メロディキーボード」の音域が1オクターブ上がったことを表します。

※「Aメジャーボタン」を1回押すと元の音域に戻ります。もう一度「Aメジャーボタン」を押すと、音域が1オクターブ下がります。ディスプレイには「-1」が表示されます。

3 「ストラムプレート」か「メロディキーボード」を演奏してみましょう。
音域が1オクターブ変化したのが分かります。

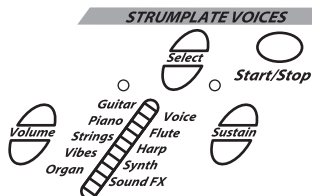
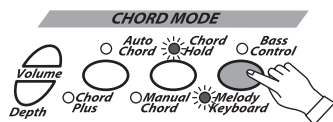
※「ストラムプレート」を演奏する場合は、「メロディキーボードボタン」を押し、LEDを消灯させます。「メロディキーボード」(P38に記載)はそのまま演奏できます。

Qヒント

音色によって、どのオクターブ設定がいいか試してみましょう。
全伴奏を演奏するのなら、高オクターブセッティングが適しているでしょう。
その他のバンド演奏からストラムプレートを目立たせることができます。

演奏の仕方・・・その他の機能

Qコードは、「ストラムプレートセレクトボタン」で選択できる音色以外にも内蔵音色が多数あります。P43～P44の音色リストをご参照ください。



ストラムプレートボイスのLEDはすべて消灯
= ストラムプレート追加音色モード

ストラムプレート追加音色

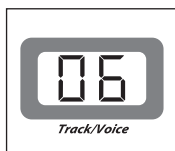
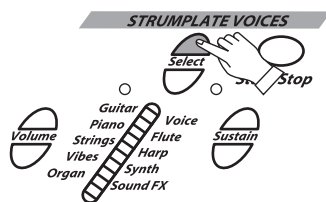
- 1 メロディキーボードボタンを押し、LEDを点灯させます。
- 2 「F#ボタン」を1回押します。
「ディスプレイ」には「00」と表示され、「ストラムプレートボイス」のLEDが全て消灯します。この状態が「ストラムプレート追加音色」モードであることを表します。

Qヒント

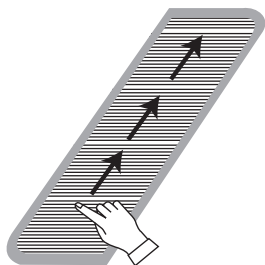
「00」は「アコースティックピアノ」の音色です。表示される数字は、音色リストの番号になります。(P43～P44参照)

- 3 もう一度「メロディキーボードボタン」を押し、LEDを消灯させます。

演奏の仕方・・・その他の機能



「06」＝「ハーブシコード」



- 4** 「ストラムプレートセレクトボタン」の「アップボタン」を押しつづけ、ディスプレイに「06」と表示させます。
「06」は「ハーブシコード」の音色です。

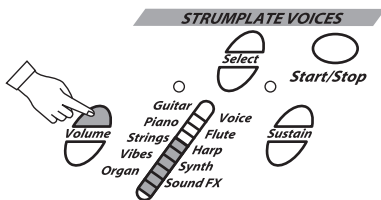
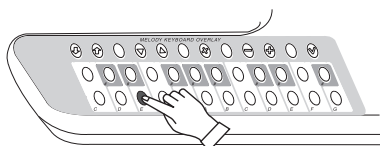
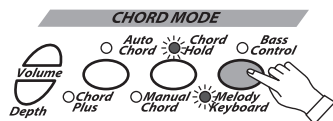
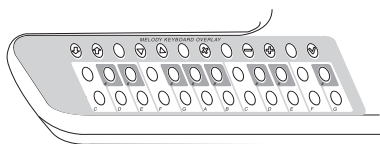
- 5** いずれかの「コードボタン」を押して、「ストラムプレート」を鳴らしてみよう。
ハーブシコードの音色で音が鳴るのがわかります。

Qヒント

音色によって、音の構成要素などが違うので、新しい音色を選んだときは、サステインなどの調整をしてみましょう。色々な音色を試し、音色によって最適な演奏の仕方やエフェクト、オクターブセッティングなどを変え、演奏を楽しんでください。

演奏の仕方・・・その他の機能

Qコードは旋律を演奏できるよう、キーボード機能がついています。コードボタンの下2列が、キーボードとして使えます。付属のオーバーレイ(テンプレート)を使用するとキーボードの位置がわかりやすいでしょう。



メロディキーボード

- 1 「コードボタン」の上にオーバーレイを乗せます。
- 2 「メロディキーボードボタン」を押し、「メロディキーボード」LEDを点灯させます。
- 3 「ストラムプレートセレクトボタン」もしくは「ストラムプレート追加音色」から、演奏したい音色を選択します。(P36参照)
- 4 「コードボタン」の下列のいずれかボタンを押してみましょう。左図では「E」の音が鳴ります。
- 5 音量を調節するには「ストラムプレートボリューム」の「アップ/ダウンボタン」で行います。

Qヒント

メロディキーボード選択時には、「ソングカートリッジ」を使うか、「デモボタン」が押されていない限りは、ドラムとメロディキーボードのみの演奏となります。

Qヒント

より広い音域で演奏したい場合、「オクターブシフト」機能を使うといいでしょう。(P35参照)

QコードはMIDI IN/OUT端子があります。MIDIとはなにか、を説明します。

MIDIとは

MIDI(ミディ)とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略で、楽器どうしを接続して演奏情報を交換しあうための統一規格です。MIDI対応の電子楽器であれば、どこの国のどのメーカーのものでも、情報の交換ができます。

MIDI対応機器にはMIDI端子があり、その接続には専用のMIDIケーブルを使用します。本機にはMIDI IN/OUT/THRUの3つの端子があります。

MIDI OUTとは

MIDI OUTはQコードが出すMIDI情報を送信します。ですから、Qコードで作られるコードノート番号、ストラムプレートノート番号、メロディーキーボードノート番号やその他伴奏データを送信できます。

MIDI INとは

MIDI INとは、Qコードの音源をコントロールできる外部のMIDI機器からMIDI情報を受信します。ここで受け取った信号に従って音が出ます。

MIDI・・・MIDIデータの送受信

QコードはMIDI INポートを経由して、MIDIデータを受信します。そして、MIDI OUTポートを経由して送信します。

MIDIデータの送信

- 1** QコードとMIDI機器の電源をOFFにして、QコードのMIDI OUTジャックへMIDIケーブルを接続します。MIDIケーブルの他の端をMIDI機器のMIDI INジャックへ接続します。
上記の接続が終わったら、両方の機器の電源を入れます。
- 2** Qコードを演奏すると、接続したMIDI機器も同じように音が出ます。MIDI機器だけから音を出したいときはQコードの音をしばって下さい。QコードとMIDI機器の音を同時に出したいときは、Qコードのボリュームをお好みの位置に調節して下さい。
- 3** Qコードは、下記のMIDIチャンネルからMIDIデータを送信します。これらはMIDI送信の固定チャンネルです。

MIDI Channel 1・・・・メロディーキーボード

MIDI Channel 3・・・・コードプラス

MIDI Channel 5・・・・オートコード 1

MIDI Channel 6・・・・オートコード 2

MIDI Channel 7・・・・オートコード 3

MIDI Channel 8・・・・オートコード 4

MIDI Channel 9・・・・バス

MIDI Channel 10・・・・ドラム

MIDI Channel 14, 15, 16・・・・ストラムプレート

Qコードと接続するMIDI機器は、全MIDIチャンネルを受信する能力が必要です。または、必要とするチャンネルだけを受信するチャンネルセレクトが必要です。

Qヒント

詳細については、P42のMIDI Implementation Chartをご覧ください。

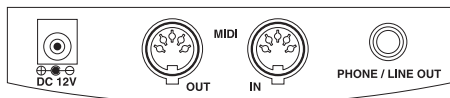
MIDIデータの受信

Qコードはマルチティンバーでオムニモードをプリセットされています。これはいつも全MIDIチャンネルを受信することを意味します。

Qヒント

MIDI OUTとMIDI INの両方のジャックを同時に接続する事は出来ません。MIDI OUTジャックのみを使うか、またはMIDI INジャックのみを使って下さい。両方を同時に使用するとデータの受送信が正しく出来ない場合があります。

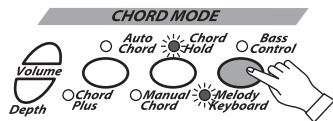
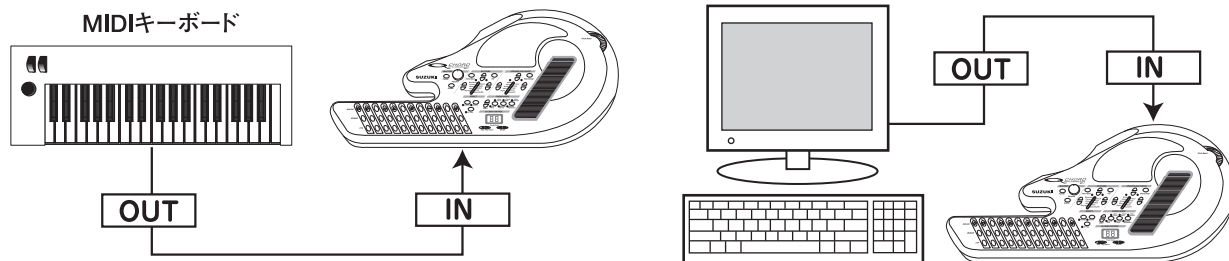
MIDI・・・MIDIエクスペンダーモード



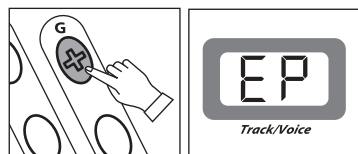
ここではMIDIエクスペンダーモード(Qコードを音源として使用したい場合)について説明します。

MIDIエクスペンダーモードの設定

- 1 Qコードへ接続したいMIDI機器の「MIDI OUT」に「MIDIケーブル」を接続します。
- 2 1で接続した「MIDIケーブル」の反対側をQコードの「MIDI IN」に接続します。



- 3 「メロディキーボードボタン」を押し、LEDを点灯させます。(バスコントロールLEDは消灯)



- 4 「Gメジャーボタン」を1回押します。
「ディスプレイ」には「EP」と表示され、エクスペンダーモードになっていることを表します。

※エクスペンダーモードでは、Qコードの演奏はできなくなります。
解除するには、もう一度「Gメジャーコード」を押し、「メロディキーボードLED」を消灯させます。

Qヒント

MIDIインプットチャンネルはあらかじめ調節され、操作できません。詳しくはP42「MIDI Implementation Chart」をご覧ください。

MIDI・・・MIDIインプリメンテーションチャート

MIDI IMPLEMENTATION CHART

FUNCTION		TRANSMITTED	RECOGNIZED	REMARKS
Basic Channel	Default Channel	3 5 6 7 8 9 10 14 1-6, off	omni omni	
Mode	Default Messages Altered	× × -----	mode 3 ×	
Note Number	True Voice	12-120 -----	0-127 21-109	
Velocity	Note On Note Off	× ×	× ×	
After Touch	Key's Ch's	× ×	× ×	
Pitch Bender		○	○	
	0, 32 1 5 6, 38 7 10 11 64 67 69 91 93 96, 97 98 99	× ○ × × × × ○ × × × ○ × × × ×	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	Bank Select Modulation Portamento Time Data Entry Volume Pan Expression Hold Soft Sustain Reverb Level Effect Level Data Inc/Dec NRPN LSB, MSB RPN LSB, MSB
Prog Change	True	○ -----	× ×	
System Exclusive		×	×	
System	: Song Pos	×	×	
	: Song Sel	×	×	
Common	: Tune	×	×	
System	: Clock	○	○	
Real Time	: Commands	○	○	
Aux Message	: Local ON/OFF : Active Sense	× ×	× ×	

× : No ○ : Yes

ストラムプレート音色リスト

ピアノ

0	アコースティック グランド ピアノ
1	ブライト アコースティック ピアノ
2	エレクトリック グランドピアノ
3	ホンキートンク ピアノ
4	エレクトリック ピアノ 1
5	エレクトリック ピアノ 2
6	ハーブシコード
7	クラビ 1

バイブス

8	セレスタ
9	グロッケン
10	ミュージック ボックス
11	ビブラホン
12	マリンバ
13	ザイロホン
14	チューブラ ベル
15	ダルシマー

オルガン

16	ドローパー オルガン
17	パーカッシブ オルガン
18	ロック オルガン
19	チャーチ オルガン
20	リード オルガン
21	アコーディオン
22	ハーモニカ
23	タンゴ アコーディオン

ギター

24	アコースティック ギター (ナイロン)
25	アコースティック ギター (スチール)
26	エレクトリック ギター (ジャズ)
27	エレクトリック ギター (クリーン)
28	エレクトリック ギター (ミュート)
29	オーバードリブン ギター
30	ディストーション ギター
31	バンジョー

ベース

32	アコースティック ベース
33	エレクトリック ベース (フィンガー)
34	エレクトリック ベース (ピック)
35	フレットレス ベース
36	スラップ ベース 1
37	スラップ ベース 2
38	シンセ ベース 1
39	シンセ ベース 2

バイオリン

40	バイオリン
41	ビオラ
42	チェロ
43	コントラバス
44	トレモロ スtrings
45	ピチカート スtrings
46	オーケストラ ハープ
47	ティンパニ

ストリングス

48	Stringス アンサンブル 1
49	Stringス アンサンブル 2
50	シンセ Stringス 1
51	シンセ Stringス 2
52	アー クワイヤー
53	オー ボイス
54	シンセ ボイス
55	オーケストラ ヒット

トランペット

56	トランペット
57	トロンボーン
58	チューバ
59	ミュート トランペット
60	フレンチ ホルン
61	プラス セクション
62	シンセ プラス 1
63	シンセ プラス 2

サクソ

64	ソプラノ サックス
65	アルト サックス
66	テナー サックス
67	バリトン サックス
68	オーボエ
69	イングリッシュ ホルン
70	バスーン
71	クラリネット

フルート

72	ピッコロ
73	フルート
74	リコーダー
75	パン フルード
76	ボトル ブロー
77	尺八
78	ホイッスル
79	オカリナ

ストラムプレート音色リスト

シンセ リード

80	リード1 (スクエア)
81	リード2 (ソー リード)
82	リード3 (カリオペ)
83	リード4 (チファー)
84	リード5 (チャラング)
85	リード6 (ボイス)
86	リード7 (フィフス)
87	リード8 (ベース&リード)

シンセ

88	パッド1 (ニューエイジ)
89	パッド2 (ウォーム)
90	パッド3 (ポリシンセ)
91	パッド4 (クワイヤー)
92	パッド5 (ボード)
93	パッド6 (メタリック)
94	パッド7 (ハロー)
95	パッド8 (スウィープ)

シンセFX

96	FX1 (レイン)
97	FX2 (サウンドトラック)
98	ドラム キット
99	サウンドFX

アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付しております。
保証書は販売店でお渡し致しますので、所定事項の記入および記載内容をご確認の上、大切に保管してください。
2. 保証期間はお買い上げ日より1年間です。
保証書の記載内容によりお買い上げ販売店が修理致します。その他、詳細は保証書をご覧ください。
3. 保証期間が切れましても、修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。
4. アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または各営業所にお問い合わせください。

Q *CHORD*